特集

全国よい仕事研究交流集会2015を開催

2015年２月28日、３月１日の２日間にわたり、全国よい仕事研究交流集会2015「はたらくことは人を命につなぐもの　社会的孤立と排除に抗し、『ともに生きる』地域をつくるー自らの果たすべき役割を問う」をテーマにして開催しました。２月28日は全体会を日本教育会館（参加者534名）、３月１日は３会場（日本教育会館、TKP市ヶ谷カンファレンスセンター、TKPガーデンシティ竹橋）で16の分散会（参加者508名）を行いました。

全体会では、田中羊子専務理事の基調提起の中で、「よい仕事の到達点」として、「地域の人々が協同労働で仕事をおこし、『ともに生きる』地域づくりに立ち上がる時代」に入ったことをあげた上で、社会が大きく動く時代の中で、協同労働の協同組合の果たすべき役割を提起した。記念講演では、山崎史郎氏（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部地方創生総括官）が「まち・ひと・しごと創生がめざす“ともに生きる地域づくり”」をテーマに、まち・ひと・仕事創生法案の紹介も含めた、地方創生のあり方について、人口動態や産業分布などの資料も提示しながら、ご講演いただきました。パネルディスカッション①「人と命をつなぐ仕事おこしー地域循環型産業への挑戦」、パネルディスカッション②「困窮を生まない社会づくりへ～ともに生きる・ともに働く・地域を創る」では、外部の実践者、そしてワーカーズコープの仲間、そして地域で活躍されている地区長にも参加をしていただきました。

分散会では、「協同労働による市民主体のよい仕事、仕事おこしの実践検討会」が行われました。（第16分散会だけは協同総合研究所が受託、研究をした厚生労働省社会福祉推進事業に関わる特別分散会「地域協働による多元的・多層的な就労支援・社会的居場所創出ネットワーク構築に向けて～協同労働の協同組合が、生活困窮者自立支援事業に取り組む意義～」というテーマで開催した。）日常の「よい仕事」を各事業所でまとめ、事業本部のよい仕事研究交流集会や、本集会で32名のコメンテーターの方々のコメントから、自分たちの実践の価値を確認するとともに、「よい仕事とは何か」「働くこととは何か」を参加者全体で学び合う場となりました。

昨年の全国よい仕事研究交流集会2013も協同の発見（No.258号）誌の編集を担当しました。昨年との大きな違いは「生活困窮者」と「地域循環型産業」に焦点を当てきり、2015年４月から始まる「生活困窮者自立支援法」「改正介護保険法」「子ども･子育て関連三法」にあわせ､地方（地域）創生×当事者主体＝「地域でまちづくり、仕事をおこすこと」を、「協同労働」と「協同組合」の社会的役割であることを位置づけたことだと考えています。

本誌を発行することにあたり、全体会登壇者はじめ、分散会で書記をされた執筆者にこの場を借りて謝意を申したい。

（協同総合研究所　相良孝雄）